

動物科学館バードホールに新たな種が仲間入りしました！
～オウギバトとカンムリシャコの仲間入り～

千葉市動物公園では、動物科学館バードホールに、神戸どうぶつ王国から新たにオウギバトとカンムリシャコが加わりました。

このたび、7月16日（木）からオウギバト1羽とカンムリシャコ2羽を一般公開しますので、お知らせします。

1 個体情報

（1）来園日

令和8年7月1日

（2）搬入元

神戸どうぶつ王国（神戸市中央区港島南町7-1-9）

（3）展示個体

ア オウギバト

メス 1羽

生年月日 2025年3月29日

イ カンムリシャコ

オス 1羽 メス 1羽

生年月日 オス 2023年6月12日

メス 2022年5月29日



オウギバト



カンムリシャコ

2 展示開始日

令和8年7月16日（木）

※動物の状況によっては、展示を休止することがあります。

3 展示場所

千葉市動物公園 動物科学館バードホール（若葉区源町280）

※バードホールは、熱帯雨林に生息する動植物が自然に近い状態で観察できる展示施設です。1日に1度スコールが降ります（毎日14：30ごろに実施）。鳥たちが水浴びをしたり、通常時には見られない動物たちの姿をお楽しみいただけます。

<参考>

1 オウギバトについて

(1) 保護状況

IUCNレッドリスト LC (低危険種)

(2) 特徴

オウギバトはハト目ハト科カンムリバト属に分類され、全長66cm、体重2.5kg程度で、カンムリバト、ムネアカカンムリバトとともにハト目では最も大きい種です。全身が濃い灰青色で、頭部に扇状の冠羽があり、先端に白い飾り羽があるのが特徴で、前胸部は赤紫色で、尾の先端は明るい青色です。カンムリバトとの違いは、冠羽の先端に白い点と胸部が赤紫色（カンムリバトは灰青色）の点です。

(3) 生態

標高600m以下の熱帯雨林の林床で2～10羽の集団で生活し、樹上で休息をとります。餌は果物や種子で、繁殖は樹上に木の枝や葉、茎等を組み合わせた皿状の巣を作り、1回に1個の卵を産みます。

(4) 分布

ニューギニア島とその周辺の島々の低地林

(5) 飼育頭数

ア 千葉市動物公園 メス1羽

イ 国内飼育頭数（15施設）オス33羽、メス36羽、性別不明2羽 計71羽

※日本動物園水族館協会資料（2025年12月31日現在）

2 カンムリシャコについて

(1) 保護状況

IUCN レッドリスト VU (危急種)

(2) 特徴

カンムリシャコはキジ目キジ科カンムリシャコ属に分類され、全長24～26cmほどの小型種であり、オスは背面が暗い青褐色で、背から腰、尾にかけては緑色を帯びます。頭は黒く、眼の周囲は皮膚が裸出しており赤く、赤褐色の冠羽があります。メスの頭部は黒く、冠羽はなく、翼が褐色の他は頸から下は暗緑色です。

(3) 生態

低地の熱帯雨林で、単独またはペアで生活しますが、小さな群れで生活することもあります。林床で活動し、植物の種子や果実、昆虫類などを食べます。地面に枯葉を集めた巣を作り、5～6個の卵を産卵し、18日程度で孵化します。

(4) 分布

ボルネオ、スマトラ、マレー半島などの東南アジア

(5) 飼育頭数

ア 千葉市動物公園 オス3羽 メス3羽

イ 国内飼育数（2施設）オス15羽 メス4羽 性別不明26羽 計45羽

※日本動物園水族館協会資料（2025年12月31日現在）